

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス真愛 萩原		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		2026年 2月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		2026年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に応じた適切な支援ができています	利用者ごとの活動記録を毎日作成。支援の時間の中で起きたこと、学校からの申し送り、ご家族様からのご連絡等を毎日職員がミーティングを行い情報を共有し、利用者の日々の変化に対応している。また、利用者が学び楽しめる活動プログラムを用意している。さらに学習支援の一環として自分のペースで学ぶことができる学習ソフト「すらら」を導入している。	活動プログラムについては同法人の他事業所の活動プログラム担当者との意見交換を随時行っており、利用者にとってより良いものになるように工夫を続けます。 指導員は、利用者の個々の支援についての情報共有を密に行い、支援を継続することで利用者の成長に寄り添います。
2	職員の意識が高く、自己研鑽に努めている	「支援の質の向上」テーマに掲げて、事業所全体でミーティングや研修会を実施している。さらに職員自身が自ら外部研修の受講、eラーニングに取り組むことを奨励している。そうして得た知識や体験を情報として共有する取り組みを行っている。取り組みの成果として、感染症対策には専門性の高い職員の養成ができた。	R8年度には長崎大学が行う「子どもの心の支援にかかわる高度人材育成プログラム」を2名の職員が受講することになっている。学びを生かしながら、利用者がそれぞれに抱えた悩みに寄り添える支援をしていきたい。
3	保護者様との適切な連携により、ご利用について高い評価を得ている	アセスメント、モニタリング、計画説明等の時間を通じて、利用者の支援についてご家族との共通理解を得るとともに、日々の支援の中での出来事はその大証にかかわらず、小さな気づきでも連絡ノートやデイ日誌また送迎時でのお声掛け等でお知らせするようにしている。保護者様との信頼関係を構築していくことで利用者の成長と一緒に喜びたいと思っている。	これまでと同様に保護者様との適切な連携を大切にすることで、安心してご利用いただける事業所であり続ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価を行っていない	放デイの支援の質の向上、事業所の課題、それに対する解決策等を明確にするために第三者による評価を受審することに意義はあると思うが、現状では差し迫った必要性を感じていないこと。	引き続き検討を重ねていきます。
2	関係機関、地域との連携等を行っていない	保護者様からのニーズがないこと。 利用者が望まない状況で地域の学童保育または児童館等と交流することは難しいと考える。	当面は、他者との関りを生活の中で学んでもらう機会を設け活動に取り入れる。(お買い物体験や公共交通機関の利用体験等) また、地域で行われる体験型イベント等では主催者側に理解をしていただける環境を整えたいと考えています。
3	保護者会等を行っていない	アセスメント、モニタリング、計画説明等において個別にお話を伺う機会を持っているが、この上さらに保護者会などの開催に時間を割いていただくと、保護者様のご負担が大きくなるのではないかと躊躇している。	現在のところ保護者様からのご要望は出ていないが、保護者様からの要望があれば速やかに計画していきたいと考えています。